

令和八年度しがアートコラボレーション事業

第六回 能楽を楽しむ

能装束着付実演と能

葵 上

2026年
6月23日（火） 13:15開演（12:00開場）

能登川コミュニティセンター

東近江市駄光寺町262番地（JR能登川駅・西口より徒歩5分）

入場料 / 前売 一般 2,500円 22歳以下 1,000円（当日は各200円増） **全席自由席**

販売開始：2月17日（火）※前売券が完売の場合、当日券の販売はございません。

【ロビーにて】 県内の能面打ち愛好家による「能面展示」

チケット取扱・お問い合わせ

- ・能登川コミュニティセンター ☎050-5802-2793
- ・滋賀能楽文化を育てる会 ☎0748-42-0002 / ☎090-8885-2674

【主催】 公益財団法人びわ湖芸術文化財団 滋賀能楽文化を育てる会

【協賛】 一般社団法人能登川地区まちづくり協議会

【協力】 ファブリカ村

【後援】 滋賀県 滋賀県教育委員会 東近江市 東近江市教育委員会



第六回 能楽を楽しむ

能装束着付実演と能「葵上」

第一部 謡曲・仕舞の発表

- ・謡曲・仕舞(滋賀能楽文化を育てる会 会員)
- ・能面解説(滋賀能楽文化を育てる会 伊庭貞一)

第二部 着付実演・能楽解説

- ・雛子の解説
- ・着付実演と解説(観世流能楽師・田茂井廣道 他)

休憩

第三部 能

・ナレーシヨ「葵上」 中島みちる

ツレ・照日巫女 河村浩太郎

シテ・六条御息所の生霊 田茂井廣道

葵上 ワキ・横川小聖 有松 遼一

ワキツレ・臣下 原 陸

間 島田 洋海

後見 樹下 千慧

味方 團

地謡

鷲尾世志子
浦部 幸裕
林喜右衛門
吉浪 壽晃
松野 浩行

附祝言

・司会 中島みちる

※使用する能面は、「滋賀能楽文化を育てる会」会員の中から選ばれます
※舞台の背景は、近江の麻を使ったデザインとなっています



あらすじ

葵上は、源氏物語の「葵の巻」を題材とし、光源氏の正妻となった葵上と、光源氏の愛を失った六条御息所(ろくじょうのみやすどころ)との愛の確執を題材とした演目で人気のある曲です。光源氏の妻となった左大臣の娘・葵上は、最近物の怪に悩まされていました。物の怪の正体を知るべく、院の臣下(ワキツレ)に命じられて口寄せを行う照日巫女(ツレ)を招き、明らかにしました。姿を現したのは、かつて葵上に屈辱を受けた六条御息所の怨霊だと名乗り、自らの抱える辛い思いを訴え、感情の高ぶってきた彼女は、葵上の病床に迫って責めさいなみ、葵上を冥府へ連れ去ろう呪いの言葉を吐き捨て、そのまま姿を消していききました。

家臣たちは、御息所の激しさにおのき、偉大な法力を持つ修験者(ワキ・横川小聖)を急いで呼び出し、修験者が祈禱をしていると、そこへ鬼女の姿となった御息所の怨霊が現れ、葵上のみならず祈禱をしている修験者にも襲いかかります。激しい戦いの末、御息所の怨霊は祈り伏せられ、心安らかに成仏するのです。

みどころ

「葵上」は世阿弥が整えた曲とされ、題名は「葵上」ですが、実際には葵上は登場しません。舞台正面手前に一枚の小袖が置かれ、これが無抵抗のまま物の怪に取り憑かれて苦しんでいる葵上を表します。御息所は元皇太子妃という身分の高い、美しく教養のある女性が嫉妬に狂って鬼女に変貌する設定なので、不気味さの中にも気品が漂う激しい舞、それを盛り上げる地謡・雛子が大きな魅力です。また、この作品には源氏物語を醸し出すため、前半の見せどころの謡に「花宴・蓬生・朝顔」など源氏物語の巻名が散りばめられた演出されています。

参加者募集(参加費無料)

【夏休み こども能楽(謡・仕舞)教室】

◎伝統に触れ、心と体を育てる。「日本の心」能楽を体験してみませんか？
(講座内容)基本から能楽師が教えます。お腹から声を出して、仕舞で美しい姿勢・集中力を養います。

(開催日)七月〜八月の間の五日間(一回の講座Ⅱ約一時間半)

(対象)小学生(初心者歓迎)※保護者同伴可

(指導)能楽師 観世流シテ方 浦部幸裕

(会場)能登川コミュニティセンター1和室

(申し込み) ☎0748-4210002



申し込みQR



能登川コミュニティセンター

〒521-1205 滋賀県東近江市光寺町262番地
TEL:050-5802-2793

交通アクセス

JR能登川駅西口より徒歩5分
(能登川中学校向かい)

